

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月31日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720029

研究課題名（和文） ライシテ（非宗教性）の再定式化のために—フランス、ケベック、日本を事例として

研究課題名（英文） Rethinking Secularism (Laïcité) : Comparative Studies of France, Quebec and Japan

研究代表者

伊達 聖伸 (DATE KIYONOBU)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：90550004

研究成果の概要（和文）：

本研究では、フランスのライシテの歴史を批判的に見直す一方で、ケベックのインターカルチュラルなライシテの分析を進めた。その結果、政教関係の国際比較のツールとして、また新たな共生の原理としてライシテを再定式化するためには、ライシテの構成要素がさまざまな社会でどのように編成されているのかをとらえることが重要であることがわかった。また、日本の政教関係史をライシテの観点から読み解くための見通しが得られた。

研究成果の概要（英文）：

This research reviewed critically the history of laïcité (secularism) in France, and advanced the analysis of Quebec's intercultural laïcité. As a result, it revealed the importance of understanding how the elements of the laïcité are composed in various societies. This was done in order to rearrange the concepts relative to the laïcité as a tool for comparing state-religion regimes in the world and as a principle of coexistence. In addition, a new vision acquired through this study in part enabled us to reread the Japanese state-religion structure and its history from the viewpoint of the laïcité.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600.000	180.000	780.000
2011年度	800.000	240.000	1.040.000
2012年度	600.000	180.000	780.000
総計	2.000.000	600.000	2.600.000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、宗教学

キーワード：宗教学、ライシテ（非宗教性）、政教分離、世俗主義、フランス：ケベック：日本

1. 研究開始当初の背景

ライシテとは、宗教からの自律性を獲得した国家を軸に、諸宗教間の平等と宗教の自由を保障する原理、またはその制度である。大革命後のフランスで、反カトリック的な要素を孕みながら形成されたこの「宗教共存システム」は、他方では「世俗の時代のナショナル・イデオロギー」の役割も果たしてきた。

このような従来型のライシテが、転機を迎

えている。特にフランス第二の宗教に成長したイスラームに対する対応をめぐり、ライシテを新たな共生の原理として再定式化することが急務になっている。

これまでは、ライシテを「フランス的例外」と見なす向きが強かった。現在でも、その傾向は根強い。しかし他方では、ライシテを「脱フランス化」する動向も見られ、世界の政教関係を「ライシテ」という観点からとらえか

えず動きがはじまっている。

だが、日本ではライシテの研究はあまり進んでいない。フランスやフランス語圏のライシテの研究動向を押さえること、日本の政教関係をライシテの観点から見直すことの両方が必要とされている。

2. 研究の目的

研究の全体構想は、近代の政教関係を再検討し、「ライシテ」をこれからの社会の共生の原理として再構成するというものである。本研究はその最初の基盤をなすもので、具体的には次の2点を目的とする。

(1) これまで行なってきた研究を土台に、フランスのライシテの歴史的展開と具体的課題をさらに明確化する。

(2) ライシテを「脱フランス化」し、他の国や地域における政教関係をライシテの観点から読み直す。そのために、本研究ではカナダのケベック州と日本を国際比較の対象にする。

3. 研究の方法

理論的仮説の構築と修正、史料や資料の読み込み、フィールドワークを有効に組み合わせた包括的アプローチを用いる。

(1) フランス近代史を批判的に見直し、現代フランスの問題構成を明確化するという課題については、文献・史料を中心に、世俗主義イデオロギーとしてのライシテを「宗教史的」に理解する。分厚い記述を意識しつつも、全体像を喚起する事例を有効に用いながら分析を進める。

(2) ケベックの事例を参照しながらライシテを「脱フランス化」し、日本の政教関係史を読み直すという課題については、ケベックのライシテについての文献を読み込む一方、教育現場でのフィールドワークを行なう。日本については、非フランス語圏の政教関係の分析に「ライシテ」という観点が有効かを問うことで、ライシテ概念を鍛え直しつつ、日本の政教関係の特質を照らし出す。

4. 研究成果

(1) 政教関係の国際比較を可能にする概念としてライシテの再定式化するに当たり、ライシテの要素的理解が肝要であること、またそれがさまざまな国や地域でどのような形で編成されているかが重要であることについて、大きな見通しが得られた。後述の「主な発表論文等」のうち、特に「2つのライシテ」や「多面体としてのライシテ」がその成果に当たる。

(2) フランスのライシテの批判的見直しについては、以下の成果を挙げた。①ライシテを世俗の時代の宗教再編力を持つとともに、一定の宗教性を備えたものとしてとらえた。

その成果はとりわけ書籍として刊行された『ライシテ、道徳、宗教学』にまとめられている。②ライシテが左派の原理から右派の原理に変貌しつつあるように見えることを、批判的にとらえ返した。③ライシテのあり方の変化を意識しながら、フランスの宗教学・宗教学研究の歴史を振り返り、その特徴を明らかにした。④カトリックの社会運動「シヨン」に注目しながら、ライシテの時代のカトリックのあり方の一面を解明した。⑤19世紀フランスにおける新たな社会秩序の模索を市民宗教の観点から検討した。

(3) ケベックのライシテについては、2008年以降教育現場で導入された「倫理・宗教文化教育」について、導入の経緯や現在の運用のあり方を教科書やフィールドワークをもとに調査した。この教科書には、ケベックにおける共生の理念と実情が現われていることがわかり、今後も継続的に調査していくべきことが明らかになった。

(4) 日本のライシテについては、フランス語による国際学会での発表やフランス語での論文執筆を通して、日本の政教関係や共生のあり方を考えることにより、その輪郭がつかめるようになってきた。今後は日本のライシテを他国との比較のなかでモデル化すべきことが新たな課題として見えてきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

- ① 伊達聖伸 「「2つのフランスの争い」のなかの社会的カトリシズム——マルク・サンニエ「シヨン」の軌跡 1894～1910」『上智ヨーロッパ研究』第5号、2013、23—42 (査読無)

<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/34872>

- ② 伊達聖伸 「フランスにおける宗教学・宗教学研究の歴史的条件と一般的特徴——EPHEの展開を中心に」『東京大学宗教学年報XXX(特別号)』2013、159—178 (査読無)

- ③ DATE Kiyonobu, « Les postérités de la religion civile dans la France du XIX^e siècle : Comte, Tocqueville, Durkheim », *Bulletin of the Faculty of Foreign*

- Studies*, Sophia University, No.47,
2013, pp.137-152 (査読無),
<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/34897>
- ④ 伊達聖伸 「ライシテの変貌——左派の原理から右派の原理へ？」『ソフィア』60巻2号、2012、106—122 (査読無)
- ⑤ 伊達聖伸 「ライシテへの3つのアプローチ——マルセル・ゴーシェ、ジャン・ボベロ、ルネ・レモンの著作にみる研究動向の一断面」『宗教法』第31号、2012、79—99 (査読無)
- ⑥ 伊達聖伸 「宗教を伝達する学校——ケベックのライシテと道徳・倫理・文化・スピリチュアリティ」『宗教研究』369号、2011、243—268 (査読有),
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008723185>
- ⑦ 伊達聖伸 「現代ケベックの倫理・宗教文化教育——小学校の教科書の分析を通して」『ケベック研究』第3号、2011、25—42 (査読有)
- ⑧ DATE Kiyonobu, « Les rapports entre la laïcisation et les avancées des droits de l'homme au Japon », *Croisements*, n°1, 2011, pp.111-123 (査読有),
<http://croisements-revue.org/doc/Extrait-K.DateCR1-2011.pdf>
- ⑨ 伊達聖伸 「2つのライシテ——スタジ委員会報告書とブシャル＝テイラー委員会報告書を読む」『宗教法』第29号、2010年、117—141 (査読無)
- ⑩ 伊達聖伸 「多面体としてのライシテ——政教関係の国際比較のために」『日仏社会学年報』第20号、2010、23—43 (査読無)
- ⑪ 伊達聖伸 「ケベックにおける『倫理・宗教文化』教育とライシテ」『ケベック研究』第2号、2010、57—64 (査読無)
- [学会発表] (計15件)
- ① 伊達聖伸 「フランスにおける宗教学・宗教研究の歴史的条件と一般的特徴——EPHEの展開を中心に」宗教史学研究所第56回研究会、東洋英和女学院大学、2012年12月1日
- ② DATE Kiyonobu, « « L'amour pour principe, la durée pour base, la création pour but » ? : Quelques points de convergence entre Comte et Bergson », Le 5^e colloque international du PBJ (Projet Bergson au Japon), Université Hosei, 15 octobre 2012.
- ③ 伊達聖伸 「19世紀フランスにおける市民宗教の諸相——コント、トクヴィル、デュルケム」、ジャン＝ジャック・ルソー生誕300周年記念国際シンポジウム、日仏会館、2012年9月15日
- ④ 伊達聖伸 「市民宗教再考——19世紀フランスの思想家たちに即して」日本宗教学会、皇學館大学、2012年9月9日
- ⑤ 伊達聖伸 「「2つのフランスの争い」のなかの社会的カトリック——マルク・サンニエ「シヨン」の軌跡1894～1910」第154回(再編第29回)関西フランス史研究会例会、京都大学、2012年7月7日
- ⑥ 伊達聖伸 「フランスの社会的カトリックに関する一考察——マルク・サンニエの「シヨン」を中心に」第54回印度学宗教学会、公開シンポジウム「宗教の力——〈絆〉再考」、東北福祉大学、2012年6月2日
- ⑦ 伊達聖伸 「基点としての『ライシテ、道徳、宗教学』」日仏会館若手研究者セミナー、日仏会館、2012年2月18日
- ⑧ DATE Kiyonobu, « Watsuji Tetsuro et son approche culturelle des religions », Université Francophone d'Asie, Maison

- Franco-Japonaise à Tokyo, 1er octobre 2011.
- ⑨ DATE Kiyonobu. « Penser la laïcité à la japonaise à travers l'approche culturelle des religions chez Watsuji Tetsuro », Conférence au CEETUM, Montréal, Canada, 15 septembre 2011.
- ⑩ 伊達聖伸「ケベックの『倫理・宗教文化』教育における『宗教』の位置」日本宗教学会、関西学院大学、2011年9月4日
- ⑪ 伊達聖伸「現代ケベックにおける『宗教』概念の変容——カトリックの戦略に注目して」日本ケベック学会研究会、明治大学、2011年7月2日
- ⑫ 伊達聖伸「ライシテへのさまざまなアプローチ——研究動向の一断面」第62回宗教学会、龍谷大学、2011年6月4日
- ⑬ 伊達聖伸「多面体としてのライシテ——政教関係の国際比較のために」2010年度日仏社会学会シンポジウム「文化的経験の多角的照射——ライシテの多様性を巡って」、東洋英和女学院大学、2010年11月13日
- ⑭ DATE Kiyonobu, « La mise en oeuvre de l'esprit interculturel au Québec : Une lecture analytique des manuels scolaires de l'éthique et culture religieuse », Panel "Religion Education in Canada", XXth World Congress of the International Association for the History of Religions, Toronto, Canada, le 19 août 2010.
- ⑮ 伊達聖伸「ライシテ研究の現在：ジャン・ボベロ、マルセル・ゴーシェ、ルネ・レモンの著作の翻訳を通して」日仏会館若手研究者セミナー、日仏会館、2010年7月3日
- ① Serge Cantin, Danièle Letocha, Frédéric Parent et al., *L'éducation en péril : Pour mieux comprendre le "printemps érable"*, Fides, décembre 2012, (DATE Kiyonobu, « La crise de l'école au Japon : problématiques structurelles et statut du religieux », pp.397-420 を執筆)
- ② 上智大学外国語学部編『ヨーロッパ研究のすすめ』(共著)、上智大学外国語学部、2012年10月 (伊達聖伸「ヨーロッパの宗教」153—178 を執筆)
- ③ 宇野重規・伊達聖伸・高山裕二編『社会統合と宗教的なもの——十九世紀フランスの経験』(共編著)、白水社、2011年7月(「宗教革命としての民衆教育——キネの宗教的自由主義と共和主義」、132—134、165—200 を執筆)
- ④ 伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学——もうひとつの近代フランス宗教史』勁草書房、2010年11月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊達 聖伸 (DATE KIYONOBU)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：90550004